

Vertical text on the right edge of the page, likely a library or collection stamp.

大明張貴德長壽劑

唐傳金應丹

癩瘡 卒病 氣鬱 頭痛 宿酒 食傷 霍亂 痰嗽 留飲

定價
 壹指四七十錠入價金百疋
 大袋三百錠入日貳朱
 小袋百十錠入日壹朱
 壹服五十錠入日銀二匁
 半服二十錠入日壹匁
 小包十錠入日五分

都て胸後のとりとせのせせ試み下け
 氣鬱を散ると神の玉酒肉の好
 後中倍倍を府の必徳病をまじり
 常は清養を服用して法毒をば
 腹中調へ食物循環一腎をまじ
 精神健ちちむ妙劑あり
 余の功獲多しとふもこころ暗
 用ひ方分量本館に要をお記申上

明人傳來之記

むり泉州城人の長崎のごく阿蘭陀唐船入津の大倭下へ板屋の
 不ありし松先祖昭部ト入市醫業の者永正十三年唐船來船の物
 大明張貴徳先生との名醫後日埔浦遠南の方ト入父泰を以て法
 直傳にト入父のそとをりい市業と毎且持業後用して後二百二十
 の書となり門百十七の附室永元奉任吉坊の間大和川ひけ八十
 余の橋を動け作り大和橋と名付此市橋を法成院の上長壽の夫
 婦お持けののの初可段皆奉奉家 右命おま祖ト入父媽お持後り
 初仕仕者そと且又ト入妻二百二十七女近存命しと世をい市業と一長
 より養業仕まり功徳著く世を能く承りたりと後い市業と一長
 書業とも唱ふる書法は明の人直傳しとて海内無二の明劑ありと唐
 傳金應丹と稱し此法業ハ毎朝夕二三錠を意りちり後用たりと唐
 法善をけし指を補ひ市長壽の間を病ちりしむるのみとていふ



本家調合所 泉州左海 有玉堂精製

